

平成27年度 横浜市市民活動支援センター（自主事業）中間振り返り

事業実施団体名
横浜コミュニティカフェネットワーク
事業名
横浜市市民活動支援センター自主事業部門（補助事業：平成27年度～平成29年度） 【テーマ】中間支援組織の機能の充実 「カフェ型中間支援機能の創出・強化・普及」
事業概要
<p>カフェが中間支援の役割を果たす意義や支援機能充実のために必要な要素、持つべき力量等を整理し、カフェの現状や課題・ニーズを確かめ、「市内のコミュニティカフェが中間支援組織として力をつけるための支援」と「当ネットワークが個別カフェを支援する中間支援力の向上」の両方を目指す。</p> <p>また、中間支援機能を果たすコミュニティカフェと、区民活動支援センターを初めとする区域の中間支援組織や活動拠点との連携のあり方も考える。</p>
事業進捗状況
<p><u>1. カフェ訪問調査（3か所終了）</u></p> <p>①コミュニティサロンほっこり（金沢区・自治会が運営するカフェ） 訪問日：5月26日（火）午前</p> <p>②ふれあいわかば等（旭区・地区社協をベースに設立したNPOが運営するカフェ） 訪問日：7月9日（木）午前</p> <p>③すみれカフェ（神奈川区・民生委員が運営するサロンカフェ） 訪問日：9月24日（木）午前</p> <p><u>2. 先進事例研究（4回終了）</u></p> <p>開催日・会場</p> <p>① 7月20日（日）13時半～16時半 ふらっとステーション・ドリーム（戸塚区）</p> <p>② 8月30日（日）13時半～16時半 港南台タウンカフェ（港南区）</p> <p>③ 9月13日（日）13時半～16時半 大倉山おへそ（港北区）</p> <p>④ 10月18日（日）13時半～16時半 スペースナナ（都筑区）</p> <p><u>3. カフェ支援会議</u></p> <p>① 大倉山おへそ（港北区） 第1回9月3日（木）午後</p> <p>② シェアリーカフェ（都筑区） 第1回9月10日（火）午後</p>
主な意見交換内容
<p>個別のコミュニティカフェを支援する「カフェ支援会議」について、付帯意見により当初計画していた2か所から3か所に変更する事業修正をしていたが、事業を実施する中で、3か所目の支援対象カフェを探すことより、平成28年度に行うカフェ訪問調査の前倒しや、先進事例研究の開催回数の増及びまとめをしっかりとすることに充てたいとの事業修正があった。</p>

(委員) 年度末に今年度の事業報告会として行う公開フォーラムで、コミュニティカフェについて整理をするということにとっても期待している。それぞれのカフェは自分たちの課題を持って活動しているので、無理につなげる必要はないと言われるかもしれないが、民間の力、自主的な活動が点となって、面となっていくような、力を感じる活動になっていくことに期待している。

色々やっているというのがコミュニティカフェの良さとして、自由度の保証をどのようにしていくか。地域の機能をあまり入れないとか、モデル化しないなど、色々あると思うが、今までの勉強会でどのような話題があったのか。

(横浜コミュニティカフェネットワーク) 様々な制度を使わないと、経費を払えないなど、事業性の難しさを感じるカフェも多い。だが、補助金等の割合が増えると、活動に制限が出てくるため、危機感はある。バランスのとれた活動の継続を各拠点なりのやり方で模索している。

(委員) カフェ訪問調査の対象が、自治会町内会が多いようだが、今後、テーマ性のあるカフェ等、多様なカフェでの中間支援の機能の充実などは計画に入ってくるのか。

(横浜コミュニティカフェネットワーク) 自治会町内会のカフェについては、当初は訪問調査の対象に入っていなかった。だが、カフェ訪問調査を先行することと、自治会町内会主体のカフェも視野に入れることという付帯意見があり、実施したもの。地域におけるカフェについては、今後何年後かには、テーマ型のカフェが持つ機能も参考になるのではないかと思っている。子育て支援を目的にしたカフェ（戸塚区のコまちカフェ）、女性の就労支援のきっかけづくりをしているカフェ（大倉山おへそ）など、今後も支援対象として考えている。

(委員) 地元には地元のノウハウがあり、支援されるということには違和感があったが、カフェ訪問では学びが多かったということも聞き、伴走者ということなら理解できる。カフェの自由度、色々あっていいということを大事にしながら、中間支援的な発想や、点から面への展開など、全体像が見える関係性は必要だと思う。伴走者という視点は大切にしてほしい。

(横浜コミュニティカフェネットワーク) カフェはまちづくりの入口機能だと思う。カフェは、ボランティアセンターや支援センターへ行く意識のない市民を、次の活動につなげていくという機能を果たしているが、地域から見ると、この機能は理解されづらい側面もある。そのことがコミュニティカフェを運営していくうえでひとつの課題となっている。このような地域での活動を可視化していくこと、地域の中の通訳機能の一部を担っているということが、今回行政との協働事業であることの要だと思う。今後、個別支援も行っていく中で、カフェの運営者が地域にどんな働きかけをしていきたいのか、地域がどういうことを必要としているか、行政等と地縁団体のつながりをどのようにしていくのか、各拠点運営者は支援や助言がほしいと思っている。

(委員) 個別支援はどのようなイメージか。

(横浜コミュニティカフェネットワーク) 支援対象のカフェには、カフェの運営部分や小箱ショップなどの多様な事業をどうしていくかなど、まさに個別の対応をしている。例えばシェアリーカフェでは、行政などから紹介された市民等からの相談件数も多い。しかし、地域における明確な位置づけがない中で、相談に時間を取られては本来の事業が成り立たない。地域の中で、これだけの人が場を必要とし、行政からのアプローチでたくさんの方が来ているということを示して、この場所を、今後どうしていくのかということ行政に対して言う必要がある。しかし、運営者は中々行

政に言いにくいので、それは横浜コミュニティカフェネットワークが伝えていくことが大切と思っている。

大倉山おへそは、まち普請事業ではじまったカフェであるが、地域との関係や組織体制の見直しをしていくことでさらに動きやすくなる拠点だ。じっくり取り組む事例となる。長期戦になってくると思う。

(委員) 伴走支援というのは、そういった活動を一緒にやって、当事者が問題解決力をもつ、ということですね。活動自体が中間支援機能を持つていくということですね。

(団体) 先進事例研究に参加させていただいているが、研究会は、充実したメンバーが一堂に会する素晴らしい会議になっている。今後、分科会形式でテーマを設けるなどするとさらに議論が深まるのではないかと思います。

(第1号様式)

横浜市市民活動支援センター
自主事業提案書(修正版)

横浜市長

平成27年4月1日

団体名	横浜コミュニティカフェネットワーク
主たる事務所の所在地	〒234-0054 横浜市港南区港南台 4-17-22 2F 港南台タウンカフェ内
代表者 役職 氏名	共同代表 泉 一弘 斉藤 保

平成27年度横浜市市民活動支援センター自主事業として、次のとおり提案します。

提案事業名	カフェ型中間支援機能の創出・強化・普及
テーマ	中間支援組織の機能の充実
事業目的 及び事業概要 (この欄に記載した 内容は、ホームページ で公表します。)	<p>【背景】・この10年ほどの間に「コミュニティカフェ」という新たなスタイルの地域拠点が市内に次々生まれている。飲食を伴わないカフェ的な場も含め、形態も交流型・テーマ型・事業型等、多種多様だ。</p> <p>・「目的を持たなくても利用できる」交流拠点としてのコミュニティカフェは、敷居低く多様な利用者に居場所や情報、地域での役割(出番)も提供しながら、課題解決につながる情報提供、ネットワークづくり、団体の運営支援等の中間支援機能を果たす要素を内在している。</p> <p>・市内に早期に開設されたカフェでは、エリアマネジメント、ネットワークづくり、団体運営相談等、既に中間支援役割を果たし始めている。この数年は、横浜市まち普請事業を活用し地域づくりを意識して開設するカフェ等も増えて、そうした中間支援志向のカフェに、支援機能の強化ニーズが出てきている。</p> <p>【目的・事業概要】 本事業では、カフェが中間支援役割を果たす意義や支援機能充実のために必要な要素を整理し、カフェの現状や課題、ニーズを確かめる。それらに基づき、具体的な個別カフェへの支援で、市内に中間支援機能を有するカフェを増やし機能強化を図る。同時に、市域の中間支援組織である当団体の支援力向上も目指す。事業成果はフォーラムや報告書で広く共有する。</p>
事業費 (当該年度)	事業の総予算額 2,300 千円 横浜市補助金額 2,000 千円
事業実施期間 (当該年度)	平成27年4月1日 ~平成28年3月31日
継続希望期間	継続希望 (1) あり(平成29年度まで) 2 なし 継続期間は最長平成29年度までとなります。

※「提案事業名」「団体名」「事業目的・事業概要」は、ホームページ等により公表します。また、公開ヒアリングを実施する場合には、横浜市市民活動支援センター自主事業提案書等の書類を、資料として一般に配付します。その他、提出された書類等については、原則として情報公開の対象となります。

事業計画書

提案 事業名	カフェ型中間支援機能の創出・強化・普及
<p>1 趣旨・目的</p>	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内各区では、区民活動支援センター・区社会福祉協議会・地区センター・地域ケアプラザ・コミュニティハウスなどの施設が、団体や住民の活動拠点となっている。 この10年ほどの間に「コミュニティカフェ」という新たなスタイルの地域拠点が市内に次々生まれている。飲食を伴わないカフェ的な場も含め、形態も交流型・テーマ型・事業型等、多種多様だ。 「目的を持たなくても利用できる」カフェは敷居を低く、多様な利用者、居場所や情報、地域での役割（出番）も提供している。また、団体の運営支援やネットワークづくり、連携のコーディネート等、中間支援機能を果たす要素を内在している。 市内に早期に開設されたカフェでは、エリアマネジメント、ネットワークづくり、団体運営相談等、既に中間支援役割を果たし始めている。この数年は、横浜市まち普請事業を活用し地域づくりを意識して開設するカフェ等も増えて、そうした中間支援志向のカフェに、支援機能の強化ニーズが出てきている。 <p>【事業の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本事業では、カフェが中間支援役割を果たす意義や支援機能充実のために必要な要素、持つべき力量等を整理し、カフェの現状や課題・ニーズを確かめ、「市内のコミュニティカフェが中間支援組織として力をつけるための支援」と「当ネットワークが個別カフェを支援する中間支援力の向上」の両方を目指す。 また併せて、中間支援機能を果たすコミュニティカフェと、区民活動支援センターを初めとする区域の中間支援組織や活動拠点との連携のあり方も考える。
<p>2 事業内容</p>	<p>(事業実施地域) 横浜市域 (小地域をベースとしたモデル事例づくり6か所程度)</p> <p>(事業の対象者) 横浜市内で運営されているコミュニティカフェと、当該カフェが立地する地域住民、地域活動団体等、まちづくりの多様な主体</p> <p>(事業内容) H27～H29年の3か年で、下記の事業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 先進事例研究 (H27年、4回) 既に中間支援機能を果たすコミュニティカフェの事例から、成功要因やその機能を把握し、カフェが中間支援機能を持つ意義や役割、持つべき力量を整理する。 2. カフェ支援会議 (H27年・H28年、計6団体+3団体) 中間支援組織を志向するカフェ運営団体(6団体)に対し、既に中間支援機能を持ち得ている先行取組カフェ3団体の関係者が支援を行う。個別カフェの支援機能強化・先行取組カフェの力量向上と同時に、団体支援を通じてネットワークの支援力向上も図る。 3. 公開フォーラム開催 (H27年・H28年、年1回、各回60名規模) 「先進事例研究」と「カフェ支援会議」で把握された成果について報告共有の場をつくり、コミュニティカフェの中間支援機能に関する理解と、関心層を広げる。 4. コミュニティカフェ訪問調査 (H27年3か所、H28年12か所) 初年度に整理した視点を基準に、横浜市内各地のカフェがどのように中間支援役割を果たしているのか、課題やニーズ等、訪問して現状を把握する。 5. 地域フォーラム開催 (H29年、市内6か所) 「カフェ支援会議」の支援対象カフェが、各地域で多様な主体と連携した地域フォーラム(自主勉強会)を開催し、具体的な中間支援の力量形成・支援基盤強化に取り組む。カフェ支援会議の支援者が、継続して助言をする。 6. 報告書、啓発冊子の制作発行 (H27年、H28年、H29年) 事業成果(コミュニティカフェが中間支援機能を持つ意義、中間支援機能や役割の整理、コミュニティカフェでの支援の実際、事例等)を年度ごとに記録し、3年目に報告書(無料配布)と啓発冊子(有料頒布)の2種類を発行する。

※この頁は、提案書（第1号様式）にて継続希望「あり」とした団体のみ記入してください。

		個別カフェの支援力強化	当ネットワークの支援力強化
3 事業計画（事業経過）	H27年度	2. カフェ支援会議（1年目） 3団体（+支援側3団体） ・支援先との調整 ・支援会議 計9回（@3回×3団体）	●支援センター事業他団体との連携調整 4. カフェ訪問調査 （3か所） 1. 先進事例研究 （4回） ・事例調整 ・研究会開催 6. 報告書の素材作成 3. 公開フォーラム ・企画準備 ・広報 ・フォーラム開催 ・中間報告 WEB 掲載
	H28年度	2. カフェ支援会議（2年目） 6団体（うち継続3） （+支援側3団体） ・新規支援先との調整 ・支援会議 計15回 （@3回×新規3団体） （@2回×継続3団体）	4. カフェ訪問調査 （12か所） ・訪問先の選定・調整 ・訪問調査 6. 報告書の素材作成 3. 公開フォーラム ・企画準備 ・広報 ・フォーラム開催 ・中間報告 WEB 掲載
	H29年度	5. 地域フォーラム （6団体＝支援会議支援先） ・各地域での企画・調整 ・支援者による助言 計6回（@1回×6） ・地域フォーラム開催	6. 報告書・啓発冊子の発行 ・原稿執筆 ・編集作業 ・印刷 「報告書」の発行・送付、WEB 掲載 「啓発冊子」の発行
4 他の団体との協力・連携 横浜市市民活動支援センター事業を担う	1. 横浜市市民活動支援センター（市民セクターよこはま） ①2014年度実施された市域のNPO調査結果から、コミュニティカフェ的な活動をする団体に関わる情報を当該団体の了解を得て共有したい。 ②アニマート取材等を通じた現場訪問、特に拠点に関わる情報の共有をお願いしたい。 ③各区区民活動支援センター関係者が市域に集まる会議等で、当ネットワークの取り組みを紹介し、区域におけるコミュニティカフェ的な団体の存在やその意義について意見交換等をお願いしたい。 2. アクションポート横浜・ETIC 市民レポーター事業や、学生インターンを受け入れ、公開フォーラム企画運営等で連携したい。 上記を通じ、公開フォーラムでの報告や、2年目のカフェ訪問調査の団体選定の素材とする。またこれからの地域づくりにコミュニティカフェが果たす役割や意義について議論を行い、相互に連携して進めたい。		

※この頁は、提案書（第1号様式）にて継続希望「あり」とした団体のみ記入してください。

<p>5 具体的な事業内容 期待される効果及び予算等 （既に本事業による取組を実施している場合、実施済みの年については事業結果及び決算を記入）</p>	H27 年度	<p>(具体的な事業内容)</p> <p>1. <u>カフェ訪問調査 (3か所)</u> 自治会・町内会が行っているカフェ等が果たしている中間支援的役割の状況を、課題も含めて訪問調査する。</p> <p>2. <u>先進事例研究 (4回)</u> 先進事例から、成功要因や機能を把握し、コミュニティカフェが中間支援機能を持つ意義や役割、持つべき機能や力量などの視点を整理する。</p> <p>3. <u>カフェ支援会議 (3団体(+3団体)×@3回)</u> 中間支援組織を志向するカフェ運営団体に対し、既に中間支援的役割を持ち得ている先行取組カフェ3団体の関係者が支援者となり支援を行う。</p> <p>4. <u>公開フォーラム開催 (1回、60名規模)</u> 1と2で把握された視点や現状について広く報告共有する。</p> <p>5. <u>報告書の素材整理 (視点と先進事例)</u> 成果をまとめ、中間報告をWEBに掲載。</p> <p>(期待される効果) 視点の整理と共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティカフェが中間支援を果たす意義や、必要となる要素、支援機能のプログラムや仕組みについて、今後の取組の視点が整理される。 ・具体的な個別カフェ3か所の現状把握とコミュニティカフェが果たす中間支援のあり方について理解が進み、先行取組カフェ3か所の力量形成がはかれる。 ・各種事業を通じて、当団体の中間支援の経験値が上がる。 <p>(事業の総予算額) 2,300千円 (横浜市補助金額) 2,000千円</p>
	H28 年度	<p>(具体的な事業内容)</p> <p>1. <u>カフェ訪問調査 (12か所)</u> 1年目で得られた視点を基準に、各地のカフェが持つ中間支援的役割の現状や課題の把握、運営団体の意識確認も含めて訪問調査する。</p> <p>2. <u>カフェ支援会議 (15回 (3(+3団体)×@3回、3(+3団体)×@2回)</u> 前年からの継続3団体に新規3団体を加えて6団体を対象とし、先行取組カフェ3団体の関係者が支援を行う。</p> <p>3. <u>公開フォーラム開催 (1回、60名規模)</u> 1と2で把握された現状を広く報告し、今後を考える場をつくる。</p> <p>4. <u>報告書の素材整理 (現状と事例)</u> 1年目の成果をまとめ、中間報告をWEBに掲載。</p> <p>(期待される効果) 現状とニーズ把握、支援ノウハウ・実績の蓄積</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地のコミュニティカフェの意識や現状、課題についての把握が進み、当ネットワークが果たす広域中間支援のあり方を考える素地となる。 ・個別カフェ6か所の中間支援に対する理解と支援力強化、先行取組カフェ3か所の力量形成が進む。 ・当団体による個別支援の経験・実績が蓄積される。 <p>(事業の総予算額) 2,400千円 (横浜市補助金額) 2,000千円</p>
	H29 年度	<p>(具体的な事業内容)</p> <p>1. <u>報告書と啓発冊子の制作</u></p> <p>① <u>報告書 (約20ページ300部)</u> 区役所、区民活動支援センター、市内コミュニティカフェへ送付</p> <p>② <u>啓発冊子 (約30ページ700部)</u> コミュニティカフェによる中間支援役割と機能、中間支援組織の地域連携等について理解を広げるための「啓発冊子」を制作し、希望者や今後の啓発活動や相談対応で、有料頒布する。</p> <p>2. <u>地域フォーラム開催 (市内6か所)</u> カフェ支援会議で支援を受けてきた団体が、各地域で多様なまちづくりの主体・住民を募りフォーラム(または自主勉強会)を開催し、地域課題の共有や具体的なネットワークづくりを実践し、コーディネイト能力向上させる。カフェ支援会議の支援者は、引き続き助言を行う。</p> <p>(期待される効果) 普及と展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間支援組織を自覚し実践する複数のカフェが市内に生まれる。 ・カフェ型中間支援機能を啓発普及させるための実績とツールができる。 <p>(事業の総予算額) 2,500千円 (横浜市補助金額) 2,000千円</p>

(第4号様式)

事業収支予算書 (平成27年度)

【収入】

(単位:円)

項目	金額	説明
横浜市民活動支援センター事業補助金	2,000,000	
団体負担(会費・寄附等)	240,000	会費(@3,000円)、寄附金
参加費・資料代等	60,000	公開フォーラム参加費1,000円×60名
合計	2,300,000	

【支出】

項目	金額	説明(使途、積算根拠等)	
カフェ訪問調査	調査費	9,000	3,000円×3団体
	交通費	12,000	2,000円×3団体×2名
	人件費	30,000	2,500円×12hrs
		19,000	1,000円×19hrs
事例研究会	開催費	90,000	30,000円×3回
	交通費	180,000	2,000円×15名×6回
	事務局人件費	150,000	2,500円×60hrs
		80,000	1,000円×80hrs
支援会議	支援団体受入れ謝金	90,000	10,000円×3回×3団体
	会場費	45,000	5,000円×3回×3団体
	人件費(主担当支援者)	307,500	2,500円×41h×3団体×1名
	交通費(主担当支援者)	30,000	2,000円×5回×3団体×1名
	人件費(支援者)	420,000	2,500円×14h×3団体×4名
	交通費(支援者)	72,000	2,000円×3回×3団体×4名
	事務局人件費	102,500	2,500円×41hrs
		72,000	1,000円×72hrs
公開フォーラム	講師謝礼金	30,000	30,000円×1名
	報告者謝礼金	40,000	10,000円×4名
	会場費	30,000	30,000円×1名
	広報費	40,000	
	事務局人件費	65,000	2,500円×26hrs
報告書	原稿執筆謝金	180,000	30,000円×6名
	事務局人件費	50,000	2,500円×20hrs
事務経費	打合せ会場費	72,000	6,000円×12ヶ月
	事務用品費	36,000	
	共同オフィス賃借料	48,000	4,000円×12ヶ月
合計	2,300,000		

*申請する事業の収支予算を記入してください。

*提案が選定された後、補助金の交付申請を行う際は、支出内容について横浜市と調整を行う場合があります。

※この頁は、提案書（第1号様式）にて継続希望「あり」とした団体のみ記入してください。

事業収支予算書（平成28年度）

【収入】

（単位：円）

項目	金額	説明
横浜市市民活動支援センター事業補助金	2,000,000	
団体負担（会費・寄附等）	340,000	会費より充当
参加費・資料代等	60,000	公開フォーラム参加費1000円×60名
合計	2,400,000	

【支出】

項目	金額	説明（使途、積算根拠等）
カフェ訪問調査	調査費	36,000 3,000円×12団体
	交通費	48,000 2,000円×12団体×2名
	人件費	115,000 2,500円×46hrs
		83,000 1,000円×83hrs
支援会議（新規団体）	支援団体受入れ謝金	90,000 10,000円×3回×3団体
	会場費	45,000 5,000円×3回×3団体
	人件費（主担当支援者）	262,500 2,500円×35h×3団体×1名
	交通費（主担当支援者）	30,000 2,000円×5回×3団体×1名
	人件費（支援者）	420,000 2,500円×14h×3団体×4名
	交通費（支援者）	24,000 2,000円×3回×3団体×4名
	事務局人件費	62,500 2,500円×25hrs
支援会議（2年目団体）	支援団体受入れ謝金（継続）	60,000 10,000円×2回×3団体
	会場費（継続）	30,000 5,000円×2回×3団体
	人件費（主担当支援者）	150,000 2,500円×20h×3団体×1名
	交通費（主担当支援者）	18,000 2,000円×3回×3団体×1名
	人件費（支援者）	270,000 2,500円×9h×3団体×4名
	交通費（支援者）	16,000 2,000円×2回×3団体×4名
	事務局人件費	30,000 2,500円×12hrs
公開フォーラム	講師謝礼金	30,000 10,000円×1名
	報告者謝礼金	30,000 10,000円×3名
	会場費	30,000
	広報費	40,000
	事務局人件費	65,000 2,500円×26hrs
報告書	原稿執筆謝金	180,000 30,000円×6名
	事務局人件費	50,000 2,500円×20hrs
事務経費	打合せ会場費	72,000 6,000円×12ヶ月
	事務用品費	36,000
	共同オフィス賃借料	48,000 4,000円×12ヶ月
合計	2,400,000	

※この頁は、提案書（第1号様式）にて継続希望「あり」とした団体のみ記入してください。

事業収支予算書（平成29年度）

【収入】

（単位：円）

項目	金額	説明
横浜市市民活動支援センター事業補助金	2,000,000	
団体負担（会費・寄附等）	425,000	会費収入より充当
参加費・資料代等	75,000	地域フォーラム参加費 500円×25名×6団体
合計	2,500,000	

【支出】

項目	金額	説明（使途、積算根拠等）
地域フォーラム	開催費	600,000 100,000円×6団体
	主担支援者人件費	180,000 2,500円×12hrs×6団体×1名
	主担支援者交通費	48,000 2,000円×4回×6団体×1名
	支援者人件費	270,000 2,500円×6hrs×6団体×5名
	支援者交通費	72,000 2,000円×2回×6団体×5名
	事務局人件費	16,000 1,000円×16hrs×1名
報告書・啓発冊子発行	原稿執筆謝金	300,000 30,000円×10名
	編集打合せ交通費	64,000 2,000円×8名×4回
	事務局人件費	370,000 2,500円×148hrs×1名
		24,000 1,000円×24hrs×1名
	報告書印刷費	80,000
	報告書送料	20,000
	冊子印刷費	150,000
	150,000	
事務経費	打合せ会場費	72,000 6,000円×12ヶ月
	事務用品費	36,000
	共同オフィス賃借料	48,000 4,000円×12ヶ月
合計	2,500,000	

横浜市市民活動支援センター2015年自主事業 **中間報告**
横浜コミュニティカフェネットワーク (YCCN)

<活動計画>

1. カフェ訪問調査 (3か所)

自治会・町内会が行っているカフェ等が果たしている中間支援的役割の状況を、課題も含めて訪問調査する。

2. 先進事例研究 (4回)

先進事例から、成功要因や機能を把握し、コミュニティカフェが中間支援機能を持つ意義や役割、持つべき機能や力量などの視点を整理する。

3. カフェ支援会議 (3団体(+3団体)×@3回)

中間支援組織を志向するカフェ運営団体に対し、既に中間支援的役割を持ち得ている先行取組カフェ3団体の関係者が支援者となり支援を行う。

4. 公開フォーラム開催 (1回、60名規模)

1と2で把握された視点や現状について広く報告共有する。

5. 報告書の素材整理 (視点と先進事例) 成果をまとめ、中間報告をWEBに掲載。

<これまでの実施状況 (2015年10月26日現在)>

1. カフェ訪問調査 (3か所終了)

① コミュニティサロンほっこり (金沢区・自治会が運営するカフェ)

訪問日: 5月26日(火) 午前

② ふれあいわかば等 (旭区・地区社協をベースに設立したNPOが運営するカフェ)

訪問日: 7月9日(木) 午前

③ すみれカフェ (神奈川区・民生委員が運営するサロンカフェ)

訪問日: 9月24日(木) 午前

2. 先進事例研究 (4回終了)

開催日・会場

① 7月20日(日)13時半～16時半 ふらっとステーション・ドリーム (戸塚区)

② 8月30日(日)13時半～16時半 港南台タウンカフェ (港南区)

③ 9月13日(日)13時半～16時半 大倉山おへそ (港北区)

④ 10月18日(日)13時半～16時半 スペースナナ (都筑区)

3. カフェ支援会議

① 大倉山おへそ (港北区)

第1回 9月3日(木) 午後

② シェアリーカフェ (都筑区)

第1回 9月10日(火) 午後

<今後の取組み予定>

1. カフェ訪問調査 (2～3か所)

2. 先進事例研究 (1回)

3. カフェ支援会議 (各2回ずつ)

① 大倉山おへそ (港北区)

② シェアリーカフェ (都筑区)

4. 公開フォーラム 2016年2月14日(日)午後 シェアリーカフェ (都筑区) にて

5. 報告書の素材整理 (視点と先進事例) WEBに掲載

以上

1 コミュニティカフェの定義について

<本事業を検討するに際してのコミュニティカフェの定義>

○次の3つの要件を全て満たしている場

- 「目的なく誰でも利用できる」
- 「飲食や物販、スペース貸など金銭のやりとりが可能である」
- 「地域と社会につながる機会が用意されている」

2 カフェ型中間支援機能について

<特徴>

- ゆるいこと、決まっていないこと、余白があることが重要（ゆるやかな場）
- カフェは、窓口なしに情報提供・相談が一緒にできる。だからこそ、気の置けない会話や不満を通して、多様な情報等が持ち込まれ、安らぎを求める人がいる（窓口のない情報提供・相談）
- うまくつなぐ人がいたり、何かの弾みで話が盛り上がったたり、そうした対話や提案などで、これまで社会に無かったもの、新しい価値のあるものが生まれる可能性がある（場の力）
- 潜在的な課題のうちに解決に向かって動く可能性（予防の役割）
- 解決しなくてもよい場（寄り添い、居場所）

<「カフェ型中間支援機能」のとらえ直し>

次の4つに整理

- ① きっかけ ②受け止め ③おせっかい ④つなぐ

（1）既にカフェで行われている社会的機能や事例

[きっかけ]

- ・何か起きてからでなく、予防できるのがカフェのいいところ（コーディネート）
- ・期待感（何か話したい、話を聞いてくれる、ヒントがある）がある。（相談）
- ・無自覚なおしゃべりから、潜在的な困りごとをキャッチできる（相談）
- ・いま疑問に思う事、語り合いことを持ち込める、やりたいことを地域でできる場所
- ・若者と高齢者が同テーブルで交流できることは貴重。
- ・コミュニティカフェにいと、成長・自立が早い。→障がい者・若者の中間就労
- ・地域住民（高齢者）に生きがい・やりがいを提供（新たな出番づくり）
- ・新たな参加・対話の場づくり。
- ・「まちのことを考える場」づくり→地域のステークホルダーが集い語る機会をつくる
- ・地域の問題だけでなく、広く社会の問題も、政治性のあるテーマも含め対象にできる

【受け止め】

- ・期待感（何か話したい、話を聞いてくれる、ヒントがある）がある（相談）
- ・「自分探し」的なおしゃべり（相談）
- ・若者と高齢者が同テーブルで交流できることは貴重
- ・いま疑問に思う事、語り合いことを持ち込める、やりたいことを地域でできる場所

<関連>

支援センターでは事前予約相談は1割。新人職員（窓口対応担当が多い）が相談対応件数が一番多い。潜在的課題で曖昧なものは、支援センター相談では受け止めきれない。

【おせっかい】

- ・何か起きてからでなく、予防できるのがカフェのよいところ（コーディネート）
- ・相談機能を住民から求められている（情報提供や仲介を行うことがある）
- ・小さな困りごとが相談ニーズになる前、無自覚なうちに解決する（予防）
- ・区域の子育て支援情報の収集と提供（情報収集提供）

【つなぐ】

- ・区域の子育て支援情報の収集と提供（情報収集提供）
- ・情報共有の場をつくり、1団体で無理なものをネットワークで対応（役所・自治会も参加）
- ・若者と高齢者が同テーブルで交流できることは貴重

<事例>

- ・おしゃべりの場が小さな困りごとの解決の場になる→ふらっとステーションドリームの事例
- ・子ども食堂や、就職相談の機会づくり、認知症カフェ開催など地域に役立つ機能の立ち上げ→スペーススナナ、ふらっとステーションとつか、大倉山ミエルの事例
- ・当事者活動の相互支援・共助支援活動の立ち上げ支援→さくら茶屋の事例
- ・ゆるやかで大きな地域イベントを展開させ、連携と担い手を生む→港南台タウンカフェの事例
- ・個人の活動ニーズをキャッチしインキュベートする→UCDN 並木ラボの事例
- ・区民活動支援センターや企業から、相談先として仲介される（カフェは無償対応）
- ・団体運営や活動に必要な地域資源・助成金情報を提供（区版センターブランチ）

（2）カフェ型中間支援機能に必要な要素

① 空間・場づくり

- ・誰でも入りやすい場・歓迎する人が、日常的にあること
- ・お客さん同士が、いつも話やすく、つながりやすい雰囲気になっている
- ・ゆるやかな場づくり、誰ともつながらないことも受け入れられる

② スタッフの意識や力量

- ・お客さんのニーズの見極め
- ・お客さんが持っているスキルや能力などを引き出す（エンパワメント）
- ・聴くこと共感すること、一緒に困る・考える、学び知ろうとする姿勢

- ・支援でなく助け合い（スタッフ、お客さんの区別なく）
- ・コーディネート（人と人をつなぐ、異なる相談をつなぐ、他分野への働きかけ）
- ・カフェスタッフ各自が持っているネットワーク・リソース・関心事の把握や活用
- ・属人的に有する情報・ネットワークをカフェ内で共有すること
- ・カフェスタッフが、地域(テーマ)への思い入れを持っている
- ・私益から公益への意識転換
- ・カフェスタッフの責任と役割を明確にする、信頼して任せる、感謝する・評価する

③ 運営組織の力量

- ・活動蓄積による（地域や他組織からの）信頼
- ・地域の動きが見える（情報が集まってくる）
- ・地域の課題把握や合意形成のスキル
- ・相談をニーズアセスとして、そこからまちや社会に必要な仕組み・機能を創出する意識
- ・地域課題を先に読んで解決する。半歩先の課題を見つけられるセンス

（３）カフェ型中間支援機能の課題

- ・事業性：中間支援機能部分は、積極的に取り組みたいが、事業性がないのが悩み
- ・信頼：地域のキーパーソン、ステークホルダーから「新参者」として受け入れられないことがある
- ・成果：何をやっているのか・成果が見えにくい→活動の可視化、事業やプロセスの評価が重要
- ・支援性：相談をカフェの機能と考えるか。ボランティアスタッフは、いつも正しい情報を提供できるか。
- ・自由度の保証：コミュニティカフェへの期待の高まりの中で、その価値の基礎となる「ゆるやかな場」の自由度をいかに保証できるか

（４）コミュニティカフェの意義や成果の可視化

○評価指標がなく意義や成果の可視化が難しい。参加人数、売上でない評価指標の必要を感じる。

- ・利用者に「来て良かった、何か得られた」と感じてもらえることが大切。
- ・相談者は「支援してもらった」意識がない。
- ・可視化させるのは「その場に集う人びとが、社会のために創り出した新たな価値」ではないか。

○可視化の手法

→カフェの認知、カフェに対する信頼、地域参加率などの数値化（一人一人の変化を慎重に調査）

→「他者（社会）のために行動することが自分にとって楽しいと思う」人がどれだけ増えたか調査（対象者の過去の経験・経験からの学び・成長などを聞き取り調査などで収集分析）

以上

YCCN カフェ型中間支援機能 事例検討会 参加者名簿

	お名前	所属(カフェ)
1	松本和子	コミュニティカフェ夢みん
2	望月啓代	大倉山おへそ
3	森祐美子	こまちカフェ
4	岡本溢子	さくら茶屋にししば
5	岩室晶子	シェアリーカフェ
6	中村泰子・柴田暁子 斉藤陽子	スペースナナ
7	五味真紀	ハートフル・ポート
8	島津禮子・泉一弘	ふらっとステーション・ドリーム
9	内山郁子・吉田篤子	ふらっとステーション・とつか
10	武井晴子	コミュニティサロンほっこり
11	三輪律江	UDCN並木ラボ・横浜市立大学国際総合科学部准教授
12	名和田是彦	法政大学法学部教授・まちづくりフォーラム港南
13	松村正治	恵泉女学院大学人間社会学部現代社会学科准教授・NORAはまどま
14	田所承己	帝京大学文学部専任講師
15	吉原明香・関尾潤	市民セクターよこはま
16	齋藤保	港南台タウンカフェ、YCCN共同代表
17	鈴木智香子	大倉山ミエル、YCCN世話人
18	米田佐知子	まちづくりフォーラム港南、YCCN世話人
19	半浦淳・夏目千絵・谷川みちる	横浜市市民局市民活動支援課